



動物と出会い 人と触れ合って 心のときめきをコーディネートするために — ZOO VOLUNTEER

円山動物園
ボランティア会

ふれあい・コンタクト

ニューズレター第 62号2014年(平成26)年11月20日発行 発行責任者:高橋淑子(代表世話役)
円山動物園ボランティア会 / 〒064-0959 札幌市中央区宮ヶ丘 3 札幌市円山動物園経営管理課気付 TEL (011)621-1426

平成26年度ボランティアの日



本年度も 9月 14 日にボランティアの日が開催されました。
各班、それぞれの催しで人気を博しましたが、ワイルド班では、
おえかきコーナー、おやつ探し やせい班では、オランウータン
と手形比べ ふれあい班では、プラバン工作 クマチカ班では、
フェイスペイントが行われ賑わいました。



動物慰霊祭

好天に恵まれ9月25日(木)13時30分より宮の森幼稚園園児の参加を得て、サルヤマ裏の動物慰霊碑で催されました。

慰霊碑に祭られたのは昨年9月から今年8月までに亡くなった動物達です。

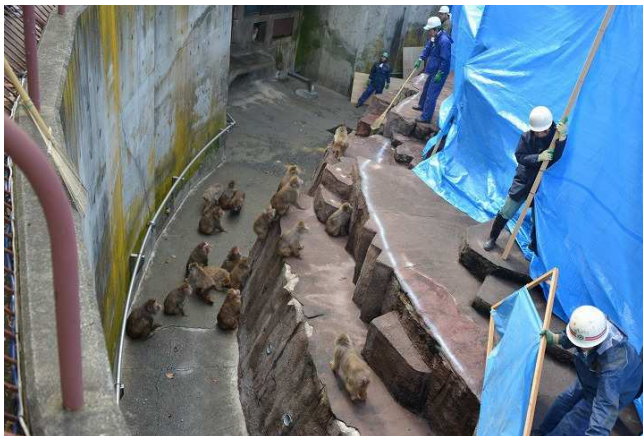


初めに、柴田飼育展示課長から対象になった動物について説明があり、哺乳類では「エゾヒグマ・マレーバク・ニホンザル」等20種類40点、鳥類は「アンデスコンドル」他10種類14点、は虫類・両生類は「チュウゴクワニトカゲ」他17種類45点、合計47種類99点についてその死が報告されました。それに続き園長代理木村経営管理課長と園児代表による献花となり宮の森幼稚園園児と父母、一般の方、ボランティアと動物園職員の順番で献花が行われました。木村経営管理課長から亡くなった動物達の冥福を祈る言葉で慰霊祭を終了しました。

(ふれあい班 小熊 瞳)

ニホンザル引越し大作戦

昭和57年に福井県東尋坊を模して作られたサル山も、鉄骨が露出したり、水漏れが起こる等老朽化したため、日本一のサル山といわれて見慣れたサル達の住まいでしたが、底と周りのコンクリート部分を残し、新しく生まれ変わることになりました。



サル達の移動は10月29日に実施されましたが、準備は真夏から始まっていました。移動するための木箱を連

日の猛暑の中、手作りで20個作りました。

大変だったのが、捕獲のための練習です。飼育員がいつもと少しでも違った行動をすると、異状を察して年配のサルが警戒の声をあげ、皆に知らせるのです。

捕獲当日。飼育員さんたちは早朝に出勤し各々の作業を済ませ、7時30分サル山集合開始、園長、小林飼育員はじめ大勢の職員さんたちの協力のもと作業開始。

地下捕獲室にサル達の好物を蒔き、餌につられてきたサルを捕獲する手順で行われました。そして最初に捕まった群れの中に第1位雄(通称ボス)の中松もいました。その後50頭ものサル達がブルーシートで追い込まれ、最後には雌の第1位「蝶子」が小林飼育員に素手で捕獲されました。「一日で捕獲でき、怪我をしたサルがいなかったので一安心しました」と云うのが小林さんの感想です。



地下で捕獲されたサルは健康チェック後、箱に入れられ、体重を計り、仮の住まい熱帯動物館に放されました。

一番重かったのが「鈴田」18kg、軽かったのが「ギン子」でした。

サル達は緊張のせい、環境になれないせい、今のところは静かな生活を送っています。捕獲に携わった職員の皆様お疲れ様でした。

(ワイルド班 田中 一江)

レッサーパンダ、子どもの名前

永田町では12月選挙に向けて走り出したようですが、こちらは一足早く投票が締め切られました。

11月末の命名式になりますが、候補にあがった名前は以下の5つです。

- ① コウタ
- ② ホクト (北斗)
- ③ タカラ
- ④ ユウタ (雄太)
- ⑤ ファンファン (幌幌)

11月16日現在発表になっていません。



熊本の『マルル』は元気ばい！

今年3月3日にホッキョクグマ「マルル」が移動し、熊本市動植物園にお世話になっているご縁から、10月13日『くまモン隊がやってくる！』のイベントが開かれました。

当日は、大型ビジョンカーが用意され、「マルル」担当である穴見飼育員から、第1部は3月の熊本到着から最近まで。第2部ではマルルの最近のお気に入りの遊びの様子などが紹介されました。

熊本の皆さんは、ホッキョクグマが自分で投げたおもちゃに向かってプールに飛び込んだり、立ち上がって餌をとる様子などにとっても驚いているそうです。現在はブイを沈めて遊ぶのが、ブームだそうです。円山時代も檻の高い場所に登ったり、きょうだいの中でも運動能力バツグンの「マルル」でしたので、最近の写真、動画をとっても楽しくみせてくださいました。マルルのプールの水は地下水なので年間17℃と安定しており、体を冷やせる状態になっていて、この水で先代のミッキーも28歳まで長生きしたと、自慢されておりました。

熊本動植物園の皆様が「マルル」の為に日々、色々と工夫して見守ってくださる様子が伝わって来ました。

(クマチカ班 西原 めぐみ)

木の実で小鳥の巣作り

紅葉がピークをむかえた10月19日。その上、なんと！この時季としてはめずらしい程の日ざしは暖かく風も無い絶好の動物園日和でした。

当日はスタッフの集合に始まり、スタートの10:30までの準備も順調に。

きっと来園者も多いだろうと思った通り会場は大勢の子供達で賑わいました。



しかも、その傍らで、開始を待ちかねる家族連れの方々が順番待ちをしてくれています。

このようなささやかな催しでも子供達にとってはドキドキの楽しみなのでしょう。

150人分のセットもまたたく間に使われ、この調子で

は午前中に終わってしまうのではないかと。

こうした忙しさの中で首尾良く運べたのも、他の班の方々の助けがあつてのことと大いに感謝です。ありがとうございました。(やせい班 小笠原 和子)



ボランティア研修実施

ボランティア会としての研修が10月20日、23日、26日の3日間、7・8期生が「ガイド」役になり、1～6期生に「お客さん」役になってツアーガイド形式により実施されました。

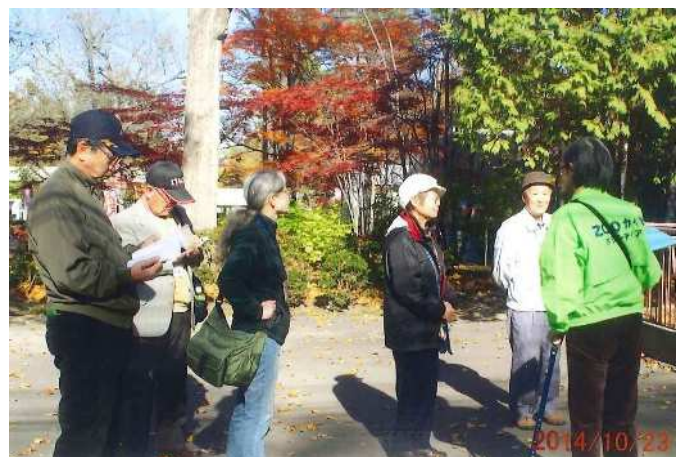
7・8期生のガイドには事前の学習、調査の成果が随所に見られ、動物の生態をはじめ特徴などの1～6期生の方の多くが満足され、大変参考になったと感想を述べていました。

ガイドした感想は、「できるだけ多くの動物のガイドをしたかったため、時間配分がうまくできなかった途中で時間が無くなった」とか「円山動物園を楽しんでもらいたいの思いで、対話するような形にしようと思いましたが、緊張のしすぎで、できませんでした。」また「お客様の先導の仕方、動物の知識など反省だらけです。」といったものでした。

「お客さん」役からは「レッサーパンダやホッキョクグマの家系図を示した解説は解りやすかった。」「ガイドが来園者の方に、『こんにちは、ようこそ』と笑顔で挨拶されとてもさわやかでした。」等の感想が出されました。

3日間の研修は終わりましたが、皆さん、研修で終わることなく一人でも多くの方が、ツアーガイド、ミニツアーガイドで活躍されますよう願わずにいられません。

(世話役研修担当 作田 征男)



キーパーさん紹介

2014年繁殖賞受賞

は虫類・両棲類館 本田 直也 さん

■明確な目的に向かって

生き物が大好きだった本田さんは、中学生の頃からカメラやヘビを繁殖させ着々と飼育の腕を磨き、1996年円山動物園の飼育員になりました。

2000年から、は虫類の担当になり、ヨウスコウワニの繁殖に成功(2002年)。は虫類・両棲類は生育地の環境の再現・季節性を提供しないと繁殖行動をしないため、前年のどの時期に何をするかを考えて実践しているそうです。

このヨウスコウワニで2002年繁殖賞と高碕賞、2005年カンボジアモエギハコガメで繁殖賞、2007年エンリッチメント大賞・動物園人賞、2014年にはアオホソオトカゲ、スピングラーヤマガメで繁殖賞を次々と受賞されました。スピングラーヤマガメは沖縄にいる特別天然記念物リュウキュウヤマガメの近縁種で、域外保全が必要になったときの技術確立のためこれまでも繁殖に取り組んできたそうです。

2011年開館の、は虫類・両棲類館では、生息地の植物が自活できる環境が、適応力の幅が狭い、は虫類が元気に長生きできるバロメーターとの考えが活かされています。



■これからの動物園

前回のインタビューで、これからやりたいとおっしゃっていた猛禽類の野生復帰が実現しています。鷹匠の資格も実はこのために取ったとのことで、獣医師が治療した猛禽類が野生で狩ができるようになるためには鳥の状態をよくわかる鷹匠の技術が一番有効なのだそうです。

本田さんは円山動物園が動物園として質の高い役割を担っていることを札幌市民が誇りに思ってもらえるように、市民の動物園観を変えていきたいという高い志をお持ちでした。

(やせい班 塚本 美津子)

計報

「ガーネット (クロザル、雌)」は平成10年、「ラッシュ (エランド、雌)」は平成14年、2頭とも円山動物園生まれ。

「ガーネット」は私たちボランティアにもプレイフェイスをして愛想を振りまいたり、モンキーハウスにいた時は金網の間から手を出して、『ちょうだい』とでもいうようなポーズをとってくれました。

「ラッシュ」は平成18年に角を切る手術をするまでは、折れたままの角をブラリ下げたままでお客様によく質問されました。(「ブッチョ」と仲良く子育ても上手な母親でした。)今、エランド舎は「ブッチョ」1頭の飼育で淋しくなりました。

(ワイルド班 上田 得一)



ガーネット



ラッシュ

編集後記

11月14日(金)遂に来ました冬の使者。寒暖差が激しく、体調管理に腐心しているうちに、本格的な雪降りとなりました。今日の動物園は深閑としています。時折、動物たちの動静を伝える放送が園内に響いているだけです。これからはお客様の少ない時期、私たちの研修時間です。この機会にスキルアップを・・・。